第85回接続料研究会の追加質問に対する回答 (モバイル接続料の検証関係)

2024年6月7日
株式会社NTTドコモ

モバイル接続料の検証関係（酒井構成員）

問 資料85-5の4ページの「平時におけるMVNOの冗長設備の利用可能性」に関し、
(1) 貴社においては、トラヒックの急増等が生じた際に、冗長設備を利用していますか。

回答

- 資料85-5の4ページにて、MVNO委員会殿が指摘されている、平時におけるトラヒック急増等がどのような状況を示しているのかをまずは明確にすべきと考えます。
- 仮に、平時における最繁忙トラヒックを示すのであれば、当社は、平時における最繁忙トラヒックに対応する設備容量を確保しており、通常、平時における最繁忙トラヒックにおいて冗長設備を利用することはありません。
- 他方、トラヒック急増等が、大規模災害やネットワーク障害に伴うものを示すのであれば、そのような状況下では冗長設備を利用しております。ただし、冗長設備の便益はMVNOも等しく享受していることから、冗長設備については接続料原価に算入する合理性があるものと考えます。
- なお、平時における最繁忙トラヒックや、大規模災害やネットワーク障害等によるトラヒック急増を見据えて、POIにおける帯域や冗長性をどこまで確保するかは、MVNOのポリシーによるものと考えます。この点、当社はMVNOからの要望があれば協議に応じる考えです。

モバイル接続料の検証関係（酒井構成員）

構成員限り

構成員限り

(2) 資料84-1の100ページに記載の、貴社の最繁忙トラヒックの実績値 は年間で最もトラヒックの多い のトラヒック量という理解でよいでしょうか。

回答

- ご認識の通りです。

モバイル接続料の検証関係（酒井構成員）

(3) 貴社が把握できる、ピーク時のトラヒックを測定する時間幅としては、どこまで細かい単位で把握できますでしょうか。
例えば、1時間が最小単位になりますでしょうか。

回答

- 当社が把握できる、ピーク時のトラヒックを測定する時間幅としては、1時間単位となります。